研究タイトル：

イギリス近現代小説と精神分析理論

氏名：	松﨑　翔斗　／　MATSUZAKI Shoto	E-mail：	s-matuzaki@kure-nct.ac.jp
職名：	助教	学位：	修士（文学）
所属学会・協会：	日本英文学会，日本ヴァージニア・ウルフ協会，日本ラカン協会，サイコアナリティカル英文学会，新英米文学会		

キーワード：	イギリス小説，モダニズム，批評理論，精神分析理論（フロイト，ラカン派）
技術相談 提供可能技術：	・小説作品講読，批評理論を用いた小説作品解釈，批評理論 ・英語学習指導（資格試験含む） ・英文解釈

研究内容：イギリス近現代小説、特にヴァージニア・ウルフの小説の精神分析学的解釈

【ヴァージニア・ウルフの小説に描かれる様々な「自己消去」】

私の研究テーマの鍵語はヴァージニア・ウルフ（Virginia Woolf [1882–1941]）の小説に描かれる「自己消去」（Self-effacement）である。例えば、ウルフの長編小説第１作目である『船出』（*The Voyage Out* [1915]）において、主人公レイチェル・ヴィンレイス（Rachel Vinrace）が "I like seeing things go on—as we saw you that night when you didn't see us—I love the freedom of it—it's like being the wind or the sea." と告白するとき、彼女は自らを周囲の風景と同化し、事物を見られずに見ることを楽しんでいる。言い換えると、周囲の視線から自己を消去してしまうという「自己消去」とでもいうべき現象を体現している。この「自己消去」が導くひとつの解釈可能性は、ジークムント・フロイト（Sigmund Freud [1856–1939]）が『快感原則の彼岸』（*Beyond the Pleasure Principle* [1920]）において提示した子どもの「いない-いた遊び」（Fort-Da）あるいは「死の欲動」（Death Drive）である。

精神分析学的解釈を要請しながら「自己消去」は様々なかたちでウルフの小説に描かれている。その効用や意義も様々である。例えば、『夜と昼』（*Night and Day* [1919]）において主人公キャサリン・ヒルベリー（Katharine Hilbery）は自らの「感情＝自己」を言語化することを嫌い、「抑圧=消去」する。『灯台へ』（*To the Lighthouse* [1927]）では、画家リリー・ブリスコウ（Lily Briscoe）は絵を描くときに自己が喪失する。絵画と自己の喪失の関係については、ジャック・ラカン（Jacques Lacan [1901–1981]）が『精神分析の四基本概念』（*The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis* [1973]）所収の「対象 a としての眼差しについて」（"Of the Gaze as *Objet Petit a*"）で述べており、彼の理論に依拠するならば、リリーの自己の喪失は絵画の眼差しが鍵となっているだろう。

一方で、この「自己消去」の問題は登場人物の神経症的あるいは精神病的側面の考察にもつながる可能性がある（例えば、レイチェルは自然と一体化することで自由を追求しつつも、基本的には情緒不安定であり、時折、世界が崩壊する感覚や世界（観）が急に変わってしまう感覚に襲われている）。

【今後の展望】

かといって、「自己消去」はウルフ作品のみに見られるものでもない。例えば、シャーロット・ブロンテ（Charlotte Brontë [1816-1855]）の『ヴィレット』（*Villette* [1853]）において、主人公ルーシー・スノウ（Lucy Snowe）は観察者として他者の視線から自己を消去する。ただレイチェルと異なるのは、ルーシーの場合には女性の鬱や宗教（プロテスタンティズム）が根深く絡んでいるという点である。また、カズオ・イシグロ（Kazuo Ishiguro [1954–]）の『私を離さないで』（*Never Let Me Go* [2005]）では、語り手キャシー（Kathy）がケアラーとして徹底的に自己を消去する。職業への自己消去である。しかし、それは一方で、クローンであるキャシーが残酷な作中世界（臓器提供のために育てられて死ぬクローンを描く世界）で生き残るためには、他者＝ドナーのために自己を消去するケアラーであるしかないという消極的選択肢でもある。

「自己消去」はヴィクトリア朝、モダニズム、現代と時代を超えて様々な小説作品に読み取ることができる。そのとき、精神分析理論との関連や鬱、ケアの問題など、作品に対して新たな読解の視点を提供できるのではないだろうか。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	